

女性会連盟ニュース

ひびき



発行：日本福音ルーテル教会女性会連盟

発行者：鈴木直子

第22期主題「キリストが望んでおられる」～喜び・祈り・感謝～

主題聖句：テサロニケの信徒への手紙Ⅰ 5章16節—18節

第23回連盟総・大会を終えて

前会長 鈴木 直子

6月2日から4日まで、第23回総・大会が主のお守りのもとに開催されました。本当に多くの皆さまのご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。大会初日は287名の姉妹また教職の先生たちによって開会礼拝が持たれプログラムが始まりました。3日間の延べ参加者は341名でした。

大塚野百合先生の「主イエスの深い愛を知る」と題した基調講演は、「この歌の命は『イエスは私を愛してください』ということです。皆さまと一緒にそのことを信じましょう」という内容でした。何曲もの賛美歌を歌い会場は一体感に包まれました。先生の深い信仰と、ご高齢を感じることはない様子からも励ましを受けました。

愛餐会には神学生もお招きしました。神学校や神学生との間に距離があるというお声からです。同様に、神学生にとっても「女性会連盟」は遠い存在だったと思います。ある神学生のことばです。「女性会の皆さまお一人お一人が大変良くしてくださり、楽しく食事を共にする事が出来ました。そしてまた期待を裏切ってはいけないと、強く励まされた次第です。女性会からのご支援と期待にしっかりとお返す事が出来るよう、日々の学びに努めて参りたいと思います。ありがとうございました」と。愛餐会の席上でどのような温かい交わりがあったのかが伺われるようでした。

総会は次ページに報告されている通りです。各教区で小委員会を立ち上げて頂き、熱心に話し合っていたいただきました。審議事項が通った箇所もそうでなかった箇所もありましたが、総会を機にまた改めて、各教会で教区で考えていただきながら、活動をしていただきたいと思います。

この総会を準備するにあたり、15期からの資料を読み直しました。私たちが感じていた問題点は形を変えながらもいつも討議されてきたことが分かりました。変化は緩やかな現れ方がよいと思いますが、ときには思い切って大胆に変化に立ち向かうことも必要です。何をすることもお金は必要ですが、それよりもまず良いように変えていこう、変わっていこうという、強い意志が私たちに与えられますようにと願っています。参加された方が「もう私たちの知らない方のほうが多くなっていて」驚かれたそうです。世代交代もしらずしらずのうちに進んでいるということでしょう。今後、連盟会員の減少期を迎えるときがくるかもしれませんが、いたずらに恐れることなく、神さまのよびかけに誠実に応えていくときに答えは与えられると思います。

総大会中は、あちこちで再会をなつかしむ輪が広がっていました。楽しそうにおしゃべりに花が咲いていて、見ていてこちらまで楽しくなりました。これが連盟の底力かと思った次第です。これで23期に引き継ぎます。これからも連盟の活動にご協力をいただきますようお願い致します。

～・～・～・～・～・～・～・～・～・～

お願い 被災地支援品の購入申し込みの際に、購入者の氏名等の記載がない教会がいくつかありました。お心あたりの女性会の方は、事務局までお申し出ください。

第23回総会審議事項報告

第6号議案：規約・内規の改正について

1. 役員の任期改正について

提案通り「引き続いての再任は出来ない」が承認された

2. 今後の総・大会開催地について

6年ごとの東京開催。間に各教区持ち回りの案は三分の二の賛成を得られず廃案

第7号議案：次世代信仰継承の働きへの協力と支援

動議が出され、提案の後半の「キャンペーンを展開する」を削除し、承認された

第8号議案：サバ神学院神学生の支援について

1. 支援継続は承認された

2. 「短期プログラムの設定について」は否認され、よって「サバ神学院交流委員会（仮称）」については取り下げ

第9号議案：第23期主題と活動方針について

総主題：「共にいてくださる主を信じて」－信仰と、希望と、愛－ コリントの信徒への手紙－13章13節

活動方針：年2回の「連盟会報」と「ひびき」及びホームページによる情報の発信と共有

聖書研究によるみ言葉の学び

感謝献金による国内外への宣教と支援

次世代への信仰の継承と、伝道教育の奉仕支援

物品販売による震災支援

会長選挙についての方法を考える

が提案通り承認された。また「次世代の命と健康を守る」「若い人を育て女性会への招き」についても次期には考えてほしいとの意見があった

第10号議案：経常会計予算大綱（案） 提案通り承認された**第11号議案：第23期連盟会長選挙** 東海教区小鹿教会 芳賀美江姉が連盟会長に選出された**第12号議案：会計監査役承認について** 推薦した2名が信任された**第13号議案：協議事項**

1. 連盟役員及び会長選出方法について、意見が多数出された

2. 正議員数を各教会1名の提案 時間が無く説明だけで終了

開会礼拝の席上献金

311,365円＋礼拝後に献金5,000円＝316,365円

<献金先内訳>

ネパール地震のために	10万円
「共に生きる」に	7万円
「喜望の家」に	7万円
ルーテル神学校に	4万円
女性会連盟に	3万6千365円
	感謝してご報告いたします。



(総会会場の様子)

第23期新役員決定



写真右から

会長：芳賀 美江（小鹿教会）

副会長・会計：

根本 明子（大森教会）

書記：杉本 範子（熊本教会）

文書：柳井 悦子（宇部教会）



大きな恵みをいただいて



芳賀 美江(小鹿教会)

熊本、舞子に続いて3度目の総・大会への参加でしたが今回は思いがけないできごとがありました。

大塚野百合先生の講演は91歳とは思えないかくしゃくたる姿と大きな声に驚き賛美歌を大勢の皆様と一緒に歌いながらイエス様の深い愛を感じたひとときです。愛餐会では若い神学生のフレッシュな紹介に希望を持ち同じテーブルの姉妹たちと歓談しながら美味しい食事を頂き心も体も元気になりとても心地よい気持ちで眠りにつきました。明日、大変なことになるとも知らず・・・

総会が始まり協議事項の途中で午後に予定されていた選挙が急遽午前中に行われることになったとのこと、慌てて舞台上がり紹介が終わると早速選挙。1回目の投票で票数が多いのに驚きこれは困ったと思っているうちに2回目の選挙、あっという間に会長に選ばれてしまいました。まさか会長になるなど思ってもみず、とにかく驚いて戸惑いの気持ちでいっぱいでした。

昼食の時にはお会いする方が次々に「お祈りしています」と声をかけてくださり会長に選ばれた実感がわいてきました。ふさわしい器ではないけれど神様が必要とされるならそれに応えなければと思うようになりました。総会が終わり帰るときにある方から「23人しかいない会長に選ばれたのは大きな恵みのよ。3年間の健康を祈っています。」と言われ「そうか神様の大きな恵みのだ」と改めて思いました。

女性会の活動をするようになって7年なのに会長の役割が出来るだろうかという不安がありますが他の役員の方々は経験豊富な頼りになる方ばかりなので教えていただきながら歩んで行きたいと思っています。神様が召してくださったからきっと助けてくださる、イエス様は聖霊を送って導いてくださると信じて3年間を過ごしていきたいと思えます。

全国の女性会の皆様のお祈りとご協力が支えです。どうぞ連盟のためにお祈りください。



恵みを受けて



坂梨 スズエ(大阪教会)

第23回女性会連盟総・大会は、6月2日から3日間、新緑の木々に囲まれた国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。当日の参加者は287名で、開会礼拝・召天者記念礼拝ではこの3年間で天に召された122名の姉妹に祈りを捧げました。

その後は、大塚野百合先生の基調講演で、「主われを愛す」や「やすかれ わがこころよ」などの作詞にまつわるお話を聞きました。小柄でご高齢の先生から出る声は大きくて、聞いているほうが元気をいただきました。夜の愛餐会では、参加の先生方の紹介と、次代の牧師になられる神学生10名の抱負をお聞きし、スライドショーによる各施設の紹介がありました。

2日目は、総会で、議事、役員選挙等で終わり、夕方には一日中の座りっぱなしから解放されました。

最終日は、鈴木浩先生の講演で、「宗教改革500年について」と題して、500年前、ドイツで民衆が買っていた、いわゆる免罪符から端を発した、ルターの宗教改革のその後、カトリックとルーテル教会との一致などの講演を聞きました。2017年秋、パチカンとルーテルとの合同礼拝が行われるが、聖餐は未だ共に出来ないとお聞きしました。

講演後、新旧役員紹介、派遣礼拝・聖餐式・役員就任式が行われ、3日間が終わりました。今期は、経費削減のための会場で、役員、現地実行委員の皆さまは大変ご苦勞なさったと思います。高齢化が進み、参加者が減少していても、今日から3年間の時を経て、「またお会いできるでしょうか」「またお会いしましょう」と、恵みに満たされた3日間の、主にある交わりを感謝し再会を約して会場を後にしました。



前へ進む原動力



廣瀬 美由紀(長崎教会)

女性会休会中の長崎教会から送り出されて初めて総大会に参加した。どんな出会いがあるか、どんな話が聞けるか、わくわくしながら会場に向かった。昨年4月から無牧で、少人数の礼拝を守っている長崎教会のことを知ってもらうという使命(?)も担って。

会期中ずっと掲げていた名札には、教会名と氏名が記されていた。誰かと話す時には必ず名札を使って紹介があった。長崎教会の話をするとうれしさをしてくれる人がたくさんいた。長崎にいと、他教会から遠く隔てられているような心細さを感じることもある。総・大会に出席して、孤立しているのではなく、主イエスに在ってつながっていることを確信した。直接顔を合わせて話すと、遠くに住んでいる人でも近く感じられる。3年に一度集まることができるのは大きな恵みだと思う。

開会礼拝・召天者記念礼拝に始まり派遣礼拝で幕を閉じる。そこにも大きな意義を感じた。特に召天者のお名前が読み上げられた時には、縦のつながりも実感した。この方たちがいたからこそ信仰は継承されてきた。自分も信仰を次世代につないでいきたいと思いを新たにした。

総会では様々な意見が出され活発な討議がされた。意見が違ってもお互いの立場を尊重することができたのは、主イエスが議論のただなかにおいてくださったからだと思う。

大塚野百合さんと鈴木浩先生の講演を通して、自分の信仰を振り返り思いを深めることができた。総・大会から帰って自分が何をすればいいのかが示された。鈴木先生のお話は、途中から熱のこもった説教を聞いているようだった。「ルーテル教会の存在理由は、神の福音をあざやかに(はっきりわかるように力強く)よろこびにあふれて発信すること。福音を輝かせましょう!」という先生の言葉が強く心に響いた。たくさんの恵みを受け、前へ進む原動力を与えられた3日間だった。実行委員会の皆様に心からの感謝を捧げたい。